



株式会社すららネット
執行役員・海外事業推進室室長
藤平朋子

音楽業界を経て、2002年に株式会社リンク総研へ入社。2003年より株式会社ベンチャー・リンクへ転職。外食等のフランチャイズ本部・加盟店支援を経験。その後複数のフランチャイズ事業開発に従事。2012年にベンチャー・リンクよりJMBOLしたすららネットへ入社。2014年より海外事業に従事。



「Surala Ninjal」を使った算数の学習風景。途上国でeラーニングを推進する日本の教育企業はまだまだ少数。同社の取り組みは「日本ベンチャー大賞」など多数表彰され、国内でのPR効果は高いという。



事業では小学1～5年生向けのインドネシア語版算数eラーニング「Surala Ninjal」を開発。インドネシア教育大学付属小学校2校の授業に導入し、基礎計算力の向上について検証している。



PROJECT REPORT

日本の技術、世界を変える

ODAを活用した中小企業海外展開支援

eラーニングの導入でインドネシアの小学生の算数力向上に挑む

小学生から社会人までを対象に、対話型アニメーション教材を開発するすららネット株式会社(東京都)では、インドネシアでeラーニング(インターネットを用いた学習)の利用や効果を図るべく、「産学連携によるeラーニングを活用した子供たちの数学の学力達成度強化のための普及・実証事業」をJICAの中小企業海外展開支援事業に提案し、2014年度公示案件として採択された。

なぜインドネシアで事業を行おうと思ったのですか？

弊社は2014年にJICAのBOPビジネス連携促進*の採択を受けて以降、現地のマイクロファイナンス(小規模金融)組織の協力のもと、スリランカの貧困層を対象に、eラーニングで小学生に算数を教えるデジタル寺子屋「Surala JUKU」事業を展開してきました。すでに「Surala JUKU」は17校舎を超え、学力も顕著に向上していることから、東南アジアで最大市場をもつインドネシアに進出しようと考えたのです。

今回の事業は、インドネシア教育大学(UPI)を受け入れ担当機関とした産学連携事業で、eラーニングを活用する方、算数教育の重要性や現状についての理解はたいへん深く、協力的です。たとえば、保護者への報告会や地元小学校への説明会にはUPIの幹部が参加し、率先して算数教育の重要性や「Surala Ninjal」の価値について説明してくれます。

こうした方々とともに事業を推進できることから、弊社では現地スタッフに「日本人だけがやっている状態にならないこと」を徹底。付属小学校とのコミュニケーションを密にすることで、「教育改善が現地に根づく連携」を図れるよう、心がけています。

今回、JICAの求人サイトを使われたそうですが、感想は？

インドネシアでの駐在人材を確保するにあたって、「インドネシア語が堪能なこと」と「現地の教育課題を解決することへの熱い思い」を重視していましたが、一般的な採用媒体では、これら細かな条件を満たす人材を探すことはほぼ不可能でした。しかしJICAの求人サイト「PARTNER」には、さまざまな言語を操れる人材や、途上国の課題解決へのモチベーションが高い人材の情報が集まってきました。おかげで、希望する条件を満たす優秀な人材を、短期間で採用できました。

PARTNERで採用した職員は、当時大学院に在籍していたため、実質は新卒人材でした。社会人経験はなかったものの、現地では主体的に、骨身を

して、子どもたちの学力達成度強化を図ろうというものです。eラーニングを行うのはUPIの付属小学校2校で、2016年に授業が始まりました。

内容は、インドネシア語に対応したクラウド型学習システム「Surala Ninjal」を用いた算数(計算)の授業です。数の概念理解などの基礎から始まり、目標を細かく設定した「モールステップ学習」で四則演算を学ぶものとなっています。

加えて、挨拶や手洗いなど日本式教育のマナーも指導しています。2017年に行った学力のエンドライン調査では、正答率が2、3倍になるなど大幅な学力向上成果が出ています。

*日本企業によるBOP(途上国の低所得者層)ビジネス支援のため、2010年に開始。現「SDG」ビジネス調査。

惜しむず働いています。その姿はほかの新卒人材にも影響を与えていますし、インドネシア出張などで触れ合った社員にも刺激を与えています。

また、全社的に見れば、スリランカや今回の事業を通じて社員がグローバルな視野をもてるようになった点も大きな収穫といえるでしょう。

今回の事業では、インドネシアの子どもたちの算数力が向上することで、進学や就職面での可能性を広げることが期待されます。それにより、産業振興やGDP成長にもつながると思われまます。先にも述べましたが、今回の事業を「過性のもの」で終わらせず、今後は現地に根づかせる方法について模索していきたいと考えています。



現地の教員を対象にした研修風景。事業では児童の学力向上だけでなく、eラーニングコンテンツの授業運用ノウハウを教員に指導することで、現地でシステムを根づかせることにも注力している。

学力だけでなく、マナーの指導も行っているんですね

インドネシアの子どもたちには、集中して学ぶ習慣がそれほどありません。授業中におしゃべりをしたり、席を立ったりという光景もよく目にします。また、日本の宿題のように、自分の力で問題を解く機会も少なく、学力を上げるために必要な学習習慣をもたない子どもたちが多い印象を受けます。現場の先生方も、そうした指導にはあまり熱心ではありません。そこで、まずは適切な学習習慣を身につけることの必要性を理解してもらうことが必要だと感じ、eラーニング授業の中で、教育マナーも指導することにしました。

一方で、UPIと付属小学校の先生

PARTNER (国際協力キャリア総合情報サイト) 途上国での経験豊かな人材が見つかる

JICAではPARTNERを運営しています。PARTNERとは、グローバル人材を求める組織や団体と、国際協力の世界で活躍を目指す方を結びつける「国際協力キャリア総合情報サイト」です。JICAボランティア経験者を始め、海外経験や高い専門性を有したグローバル人材が多数登録されているため、海外展開やCSR活動に必要な人材を確保することが可能です。

●PARTNERのしくみ



登録・利用料
無料

求める人材情報の閲覧

登録者へのスカウト

求人情報・広報情報の掲載



PARTNER
トップページ

PARTNER 検索

<http://partner.jica.go.jp/>

登録は
こちらから

PARTNER 団体登録 検索

<http://partner.jica.go.jp/OrganizationTop>

*ご利用には「団体登録」が必要です。(登録無料)
*登録申請後は簡易な審査を経て登録完了となります。



お問合せ JICA 国際協力人材部 人材養成課 TEL: 03-5226-6794 Eメール: jicahrp@jica.go.jp

今回の支援地域
インドネシア